

「市民文学館は今後も存続させるべき施設です」

市民の運動が市政を動かす

昨年10月17日、町田市生涯学習審議会は、町田市民文学館について「今後も存続させるべき施設です」という明確な答申を市教育委員会に提出しました。市の5カ年計画などで「存廃の決定」が課題になる中、市民は17年第4回定例会に「存続を求める請願」を提出し、全会一致で採択されました。共産党市議団も公共施設本来の役割を



『八木義徳展』開催中の市民文学館

示すなど存続の論戦に奮闘しました。市民の運動が、市民不在の「行革」を撤回させた大きな成

果です。

一方、市立鶴川図書館とさるびあ図書館については、市教育委員会が、同審議会での「あり方見直し」の検討をしています。

市民は、いずれの図書館も、縮小再編ではなく、現在の場所に存続を求めている。市立鶴川図書館が市民の知的活動を支援する社会教育施設としてその役を果たすことができるよう、2つの図書館の存続実現へがんばりましょう。



存続を求める運動が続いている鶴川図書館

市の施設使用料も消費税増税にあわせて値上げ

10月から予定される消費税増税に伴い、市の施設料も値上げする条例が提案され、共産党市議団は反対しましたが、賛成多数で可決されました。市民センターの会議室など、公共施設使用料や廃棄物処理手数料を定める条例で、消費税率10%に引き上げるものです。公共施設の値上げは、市民負担を増やし、市民の公平な利用の保障を後退させることになります。

薬師池公園の駐車場 平日も有料に

また、公園駐車場の使用料についても、消費税率引き上げ分を値上げするための改正と、薬師池公園のウェルカムゲート整備に伴い体験工房の料金を定め、薬師池公園駐車場全てを平日も有料にする改正が同時に行われ、日

本共産党を除く賛成多数で可決されました。多くの人に訪れてもらいたいとウェルカムゲートを作ったのに、駐車場を有料化することは、平日無料の駐車場を利用していた高齢者や子ども連れなどの市民や、観光客の気軽な来園を妨げます。

さらに、公共施設使用料の消費税は国に治める義務はなく、市の一般財源として使われます。消費税増税を口実にした市民負担増はやめて、公共施設本来の利用を守るべきです。



薬師池公園の東駐車場と北駐車場 平日は無料で利用できる

各議員の一般質問

移動教室の補助廃止は中止を

田中美穂市議

田中美穂市議は、小5、中1・2の移動教室のバス代補助を来年度から廃止する計画について、2016年度に町田市が行った調査から、約半数の世帯が「現在、子どもの就学にかかる費用が援助されることを必要としている」と答えていることを示し、保護者負担増となる補助の廃止はやめるべきと質しました。学校教育部長は、校長会の理解も得て廃止を決めていると答弁。

内閣府から、学童保育の指導員の基準を緩和する方針が出されたことについて、引き続き、学童保育は有資格者を配置すべきと質しました。子ども生活部長は児童の安全安心を第一に考える必要があるが、国の動向を注視するという答弁。学童指導員確保のために、国に対して、基準の緩和でなく、さらなる待遇改善を要望することを求めました。

高すぎる国保税に多子世帯の軽減策を

佐々木とも子市議

佐々木とも子市議は、生活保護基準の引き下げによる他制度への影響を質しました。就学援助については、引き下げ以前の認定基準を継続しているので影響はないと学校教育部長が答えました。山崎団地周辺のバリアフリーは、目標達成率60%で、低床バスの導入や段差解消など移動の円滑化をすすめているとし、高齢化が進む山崎団地の周辺環境の変化に合わせて「バリアフリー基本構想」を順次見直していくと答弁。また高すぎる国保税の多子世帯軽減策を求めましたが、「考えはない」と背を向けました。

障がい者支援センターの改善を

細野りゅう子市議

3年目を迎える障がい者支援センターについて、町田市が行ってきた業務と比べて時間がかかりすぎる、課題が解決しないなどの問題について改善を求めて質問。相談者の声をアンケート調査などで聞くよう提案。担当部長が「研究したい」と答弁。知識や経験を積み上げられるようセンターの専門職が継続できるよう財政的支援を求めました。また、南町田プロジェクトの新設道路設置により、不便になった歩行者や自転車、車の流れを改善するため、仮設横断歩道の正規化、歩行者用信号機設置を求めました。

滞納整理事務は市民の生活再建を基本に

殿村健一市議

殿村健一市議は、市民税や国保税の滞納整理事務について、赤い催告封筒の使用など徴収強化はやめて、市民の生活再建を考えた対応を求めました。税務担当部長は、市民に寄り添った対応をするとした一方、赤い封筒は継続する考えを示しました。市立博物館は、請願趣旨に沿って存続するよう求めました。リニア中央新幹線上小山田非常口工事については、尾根緑道をはじめ周辺住環境を壊し、延べ9年間に及ぶ運搬車両が与える影響は甚大であると指摘しました。道路部長の答弁で、一日150台～350台の大型トラックが住宅地を通ることが明らかになりました。



特別催告書などを入れる「赤色封筒」

無料法律相談

お気軽に

2月13日・2月27日・3月13日・3月27日

毎月 第2、第4水曜日 午後2時～
町田市役所3階 日本共産党会派室

※場所が変わることがあります。予約時にお確かめください。

要予約

☎042(723)6312